

3年間の学びを通じた長期的ルーブリック

卒業時までには到達する内容を示しています。日々の講義・演習・実習等で身につく力を意識し、自信をもって卒業できることを期待します。

各年度の前期・中期・後期の最終日に、自己評価し、出来ていると思う項目の□には、レ点を書きましょう。

教育目標 (卒業時の到達)	1. 看護を創造するために、対象の価値観を尊重し、健康でその人らしい暮らしを理解できる	2. 対象の状況をつかみ必要な看護を考え判断し実践できる	3. 看護師としての責務を自覚し、誠実で、倫理に基づいた責任ある行動がとれる	4. 対象や暮らしの多様化に対応し、保健医療チームの一員として多職種と協働できる	5. ビジョンを描き、学び続けることができる
発展させたい力	・センシング力 ・考える力	・センシング力 ・考える力 ・行動する力	・行動する力	・行動する力	・自ら学び続ける力
ディプロマポリシーとの関連	□対象の願いや思いを大切に、個人として受け止め尊重できる □その人らしい暮らしを支えるために必要な看護援助を、根拠に基づき考えることができる	□場面・状況から事実を掴み、必要な情報を獲得できる □情報と知識を照らし合わせ、判断することができる □その人らしい暮らしを支えるために必要な看護援助を、根拠に基づき考えることができる □実践した看護を振り返り、よりよい看護を考えることができる □対象の持てる力を活かし、安全で安楽な看護が実践できる	□自分も他人も大切に、よりよい関係を築くことができる □対象の持てる力を活かし、安全で安楽な看護が実践できる □倫理に基づいた責任ある行動ができる	□チーム医療の中で看護の視点から情報を発信し、協働できる □倫理に基づいた責任ある行動がとれる	□よりよい看護をしたいという思いを持ち学び続けることができる □自己の課題に気づき解決に向けた努力ができる □自分の良さを生かし、未来に向かい、専門職業人として成長することができる
3. 卒業時に期待されるレベル	□対象の身体的・精神的・社会的・文化的側面から情報を得て、一人の人間、生活者として理解することができる □対象の思いや願いを大切に、健康でその人らしい暮らしを理解できる	□対象の健康レベルに応じて、看護上の問題に対する的確な看護の方法がわかる □対象の状態と状況に応じた観察ができる □情報の意味づけをし、それまでに身につけた知見と経験を活かし、その場に応じた看護を考え実践できる □対象との信頼関係を築き、その人らしい暮らしを支えるために必要な看護援助を追求しようとする姿勢がある □自己の看護場面について振り返り、リフレクティブな思考を深めることができる	□人間としての尊厳及びその人らしさを尊重して行動できる □成人、老年、母性、小児、精神、地域・在宅看護における様々な倫理的課題に気づき、行動できる	□複雑な疾病、クリティカルな状況、様々な保健医療従事者や福祉・介護職、行政などとの連携が必要な状況にある対象の看護判断と看護を、チームメンバーと共同して考えることができる (チームメンバーと共同しながらタイムリーにできる)	□未来をよくするために必要な課題を発見し、課題解決に向けてビジョンを描き、形にできる □よりよい看護実践のために、自らの成長を願い、目の前の事象や経験に価値や意味を見出し、一生懸命学ぼうとする □看護への関心を高め、自分の資質を活かし、自分を成長させる姿勢がある
2. 2年次終了時に期待されるレベル	□看護師としてのコミュニケーションがわかり、必要な情報を得ることができる □対象を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる	□対象に合った看護計画を立案できる □様々な症状の機序と生活への影響、健康レベルに応じた看護の理解のもと、必要な看護を考え実践することができる □臨床判断のプロセスを理解し、その日の対象の状態や状況に応じた看護を考え実践することができる □臨地実習の場面を通じて、自己の看護場面を客観的に振り返ることができる	□看護の法的根拠と看護師の倫理綱領に基づいて、自立に向けた日常生活援助を、説明と同意を得て実施できる □常に自分の傾向を振り返り、対象・対象の家族と良い関係が形成できるよう、教員、臨地実習指導者、病棟スタッフの指導、助言を得て適切に行動できる □授業や演習、学外活動の中で、看護師として、また下級生に対しては先輩として模範となる行動ができる	□対象・対象の家族を生活者として捉え、退院支援におけるニーズに気づくことができる □多職種が協働してチームアプローチする重要性と、多職種の中での看護の役割がわかる	□主体的・自律的に学習に取り組む、教科書だけでなく、様々な信頼できる文献、研究論文、情報をポートフォリオに入れ、活用できる □コーチングにより、目の前の状況から必要な課題を発見できる □実習や授業を通して、看護への関心を高め、将来のキャリアビジョンを描くことができる
1.1 年次終了時に期待されるレベル	□日常生活の中で相手が送るメッセージとその意味を受け止めたフィードバックができる □対象の思いや願いを聴き、共感的態度で接することができる □自分の暮らし、身近な人の暮らし、地域の人々の暮らしについてわかる	□対象の基本的ニーズを掴み、それに応じた援助ができる □看護過程の意義と展開の仕方を理解できる □看護リフレクションの意義を理解し、演習後のリフレクションができる	□ICN 倫理綱領、日本看護協会倫理規定など、倫理的判断に必要な知識がある □原理原則を踏まえて安全に行うことができる □実習を通して、学校と施設が定める規則を遵守できる ・個人情報の取り扱い ・SNSの適切な活用、iPad内のデータの扱い、他規則、心得の内容 □学内外において、基本的なマナー(挨拶、言葉遣い等)を守り、看護専門職者としての振るまいを意識して生活できる	□多様な価値観、特性、能力をもったクラスメイトを知り、協力し課題に取り組むことができる □臨床で働く職種と役割がわかる □看護チームにおける各職種の役割と責任の違いがわかる	□授業・演習のねらいを理解し、学んだ知識を活用して、課題に取り組むことができる □看護への関心を高め、自分の資質に気づく □物事を俯瞰し、目の前の状況から課題を発見するまで時間がかかるが、コーチングにより、気づくことができる